

# 和の光

宝塚市立西谷中学校



「未という字」

秋葉てる代

「否定の意味をもつ字は四つあります。非・不・無、そして未。」

国語の時間にならったこと

非常識、不可能、無意味

否定されるのはかなしい言葉が多い

でも四つの中で「未」だけは

どこかちがっている

未来——まだ来ない。でも、いつかきっと

来るかもしれない。(来るだろう。)

未知——まだ知らない。でもいつかきっと

知るかもしれない。(知るだろう。)

今はないけどでもいつか

否定しながらどこかに希望を残している

パンドラの箱のような「未」という字

私は今何ももたないけれど

「未」という字にかけてみよう

未完成な私の未来に

私は非でも不でも無でもなく

まだ「未」なのだ



みなさんはこの詩を読んでどのように感じましたか？

私は最後の一文、“私は非でも不でも無でもなくまだ「未」なのだ”に共感を覚えました。

子どもは本来「未」という存在です。まだ完全ではないけれど希望の持てる存在。学ばなくてはならないこと、直さなくてはならないこともたくさんあるけれど、様々な経験を積むことで、

これからどんどん成長していくことができます。たくさんの可能性を秘めた子どもたちには、

「未」であることを恥じることなく、自信を持って「未」の先にあるものを探って欲しいと思います。

校長 筒井 啓介

## ■阪神・淡路大震災を振り返る～中学生の手記を通してI～

平成7年1月17日の午前5時46分、壊滅的な地震が神戸市をはじめとする阪神・淡路地区を襲いました。この地震で、かけがえのない命を奪われた人5501人、不明者2名、被災地で不自由な生活を送っている人21万人（平成7年4月6日現在）

神戸市では154人の小・中学生が尊い命を奪われました。また、一瞬にして親やきょうだいを失った人もいます。私たちは決してこの災害を風化させてはならないと思います。まもなくおとずれる1月17日を前に、当時の震災を経験した中学生の記録作文集から2つの手記を紹介したいと思います。ぜひ、最後まで読んでいただき、「命の尊さ」「日常生活の有難さ」などについて考える機会にしたいと思います。

省略

省略

### ■進路について考えよう～小論文対策IV～

公立高校の推薦・特色選抜を受検する生徒のみなさんへ、今回は「表やグラフ」を基に、小論文を書くパターンについて例題をあげてみますので、ぜひチャレンジしてみてください。

問1. 次の資料は、日本の高校生に「自己評価」について質問した結果をグラフに表したものです。この資料について、あとの条件に従い、注意事項を守って、あなたの考えを書きなさい。

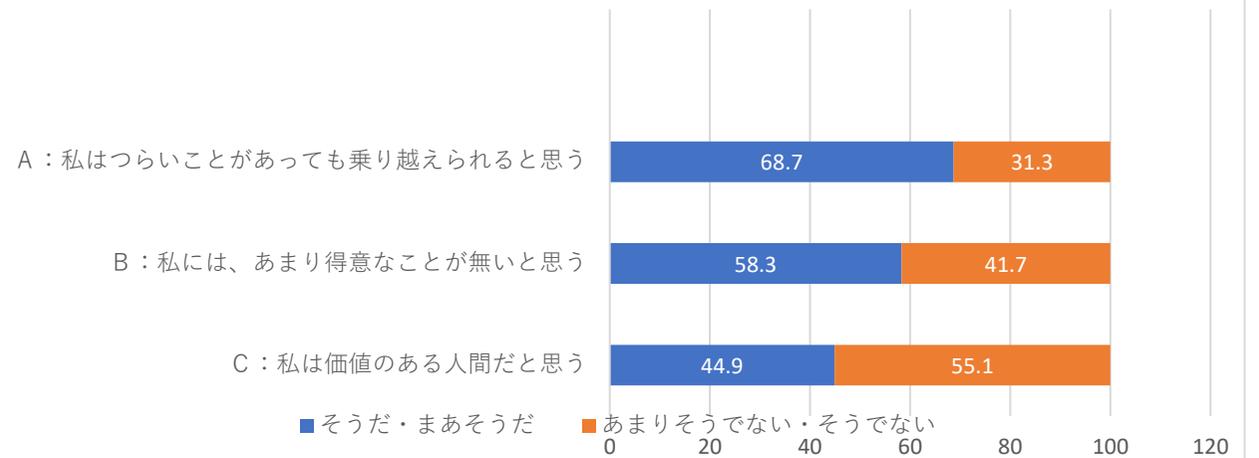
#### 【条件】

- ①二段構成として、原稿用紙に十行以内で書くこと。
- ②前段では、A～Cの項目のうちいずれか一つを選んで、グラフが示す結果に対するあなたの考えを、そのように考える理由とともに書くこと。
- ③後段では、前段で選んだ項目（A～C）について、「自己評価」を高めるために、あなたが取り組みたいこと（または、現在取り組んでいること）を具体的にあげながら、なぜその取り組みが「自己評価」を高めることになるか、その理由も合わせて書くこと。

#### 【注意事項】

- ①題名は書かないこと。
- ②原稿用紙の適切な使い方に従って書くこと。
- ③資料に示された項目を示すときは、A～Cのアルファベットを用いてもよい。

日本の高校生の自己評価(平成29年度実施)  
「自分自身についての評価項目とその回答」



★(国立青少年機構「高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書」日・米・中・韓の比較 平成30年より作成)